

前々号と前号に引き続いて「等位接続詞」(conjunción coordinada)を扱います。「結合の接続詞」(conjunción copulativa)であるyと「選択の接続詞」(coordinación disyuntiva)oと並んで基本的なものに「逆接の接続詞」(conjunción adversativa)のperoがあります。「対立」や「対比」する2つの要素を繋ぎます。

**Mañana tengo tres exámenes, pero vamos a salir esta noche.**

明日3つ試験があるけど、今夜出かけよう。

結びつける要素は文どうしのことが多いのですが、名詞、形容詞、副詞などを繋ぐこともあります。

**Es un producto muy bueno, pero un poco caro.**

それはとてもよい製品だが少し高価だ。

この例文では形容詞(buenoとcaro)がperoによって繋がられています。また、peroは文頭において強調的(驚き、反論等)に使われます。例えば次の文では話者の驚きを表しています。

¡Pero, a dónde vas a estas horas?!

でも、こんな時間にどこへ行くの?!

Peroを条件のsi...と組み合わせる使用があります。次の文の“Pero si...”は話者の「驚き」を表しているといえるでしょう。

**Estoy a régimen. Dieta estoy haciendo.**

— ¡Pero si estás muy delgada! でも君はとっても細いじゃないか!

さて、少し横道にそれますが、接続詞peroが名詞として使われている例文をみておきましょう。

**No hay pero ni pera.** しかしもへったくれもない。

前の文が否定文であるときにはperoではなくsinoが使われます。

**Juan no es inteligente, sino listo.**

フアンは賢いのではなく、狡猾なのだ。

通常「部分的訂正」の働きを持っています。前半で言ったことの一部を否定し、訂正しています。例でいうとinteligenteを否定してlistoに訂正。

今の例では2つの形容詞(inteligenteとlisto)が対比されていますが、対比される要素が形容詞や名詞や副詞ではなく、後半部に文が来る時は“... sino que...”とqueが挿入されます。

**No te pido que me ayudes, sino que me dejes en paz.**

助けてほしいと言ってるんじゃないかってほっといてほしいの。

この例の後半部では、pedirすることは否定していませんが、その内容はayudarではなくdejar en pazであると訂正を行っています。

「訂正」の意味で使われないときは前の文が否定文であってもperoが使われます。しかし、初級の教科書では「前半部が否定文の場合、逆接はperoではなくsinoを用いる」などと簡略的な説明のみの場合が多く、中級の学習者が混乱しがちな項目の1つです。次の2つの文を比較してみましょう。

**Él no es alemán, sino holandés.**

彼はドイツ人ではなくオランダ人だ。

**Él no es alemán, pero habla bien esa lengua.**

彼はドイツ人ではないが、その言葉を上手に話す。

前の例文では、あくまで否定されているのはalemánであって、これを訂正してholandésであると言っています。後者では部分的に否定しているのではなく、前半に述べたことに矛盾する事実を述べています。

「ドイツ人でない→普通はドイツ語がうまくないはずだが、彼は上手だ」  
文法的には接続詞ではないのですが、逆接を表す表現がいくつかあります。代表的なのがsin embargoとno obstanteです。

**Ya estamos en verano, sin embargo hace bastante frío.**

もう夏だ。しかしながらかなり寒い。

sin embargoは文頭でなく文中に挿入して使用できるところがperoとは異なります。

**Le ordenaron permanecer en la cama. Se marchó, sin embargo, para asistir a la clase.**

彼はベッドで寝ているように命じられた。にもかかわらず、授業に出席するために出て行った。

また、sin embargoはperoと一緒に使用することができます。

**Colombia posee abundantes recursos naturales, pero, sin embargo, su gobierno los aprovecha muy mal.**

コロンビアは豊富な自然資源を持っているが、にもかかわらず政府はうまく利用していない。

なぜ同時に使用できるかというところがそれぞれ接続詞と副詞句だからです。もし両方とも接続詞だったら並べて使うことはできません。

さて、他の類する表現も見ておきましょう。Por el contrario, en cambio, con todo, ahora bien, antes bien(最後の3つは文語的)などがあります。

**En el sur predomina la pasta seca. En cambio, en el norte se come mucha pasta fresca.**

南部では乾燥パスタが優勢だが、反対に北部では生パスタがよく食べられる。

「譲歩の接続詞」aunqueとperoは意味が似ているのでaunqueを逆接の等位接続詞とみなす研究者もいますが、従属の接続詞と考えるべきでしょう。その文法的働きが異なるからです。例を見てみましょう。

**Mi abuela quiere usar el “móvil inteligente”, pero no sabe.**

私のおばあちゃんはスマホを使いたがるが使えない。 **逆接文**

**Mi abuela quiere usar el “móvil inteligente”, aunque no sabe.**

私のおばあちゃんはスマホが使えないのに使いたがる。 **譲歩文**

peroが等位でaunqueが従属である証拠として、前者は前後の文を入れ替えることができないのに対して後者は可能であることが挙げられます。

× Pero no sabe, mi abuela quiere usar el “móvil inteligente”.  
○ Aunque no sabe, mi abuela quiere usar el “móvil inteligente”.

単純に見えがちな逆接の表現も意外に奥が深いことに気づかれたでしょうか。¡Hasta la vista!



仲井 邦佳 なかいくによし / Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。専門はスペイン語学。著書に「はじめてのエスパニョール」(共著、三修社)、「中級スペイン語一文法と演習」(共著、同学社)などがある。